



## アリマキは、どうして体からあまいしるを出すの

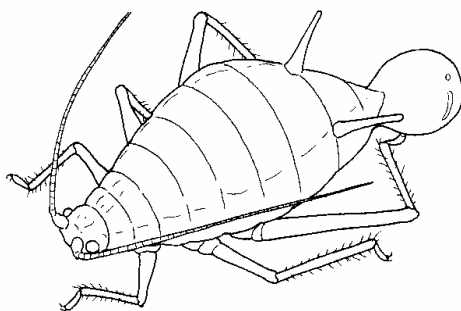
### よぶんな水と糖分を体外に出している

春、いろいろな植物の新芽やくきに、びっしりついているアリマキは、セミや、くさいにおいを出すカメムシ、アメンボなどと同じ仲間に入ります。この仲間は、どれも、針のようにつきさす口をもち、木や草のしるや、獲物の肉をとかしたしるを吸います。

アリマキは、やわらかいくきや葉に針の口をさし、植物の体の中を流れている、栄養分を吸っています。針をつきさすと、どくどくと流れている養分が、自動的にアリマキの口の中に入ってくるのです。1日に、アリマキの体重の7倍もの植物のしるが、体内に入ります。そこで、アリマキは、よぶんな水と糖分を、あまいしるとして、体の外に出しています。このあまいしるがアリマキの体につくと、体がよごれ、かびが生えて病気になったりします。そのため、アリマキは、おしりの先から出るあまいしるの水てきを、後ろ足を使って、体にふれないように、ほうり出します。

### アリマキのあまいしるは、アリには大切なえさ

アリが、アリマキの出すあまいしるをなめに集まってくるのですが、アリマキも、なめとってもらおうと、たすかるわけです。また、アリは、アリマキのあまいしるを失いたくないため、アリマキを食べにくるヒラタアブの幼虫や、テントウムシの成虫や幼虫を追いはらってやります。ですから、アリマキのあまいしるは、自分の体にはいらぬものですが、役に立っているといえます。(監修・中山 周平)



おしりからあまいしるを出すアリマキ

